

Gunma Manufacturing Division



本工場



矢島工場



太田北工場



大泉工場



伊勢崎工場

■ 各工場の概要

(2008年3月末現在)

工場名	所在地	土地面積(m <sup>2</sup> )	建物面積(m <sup>2</sup> )	従業員数(人)	主な生産品目
本工場	群馬県太田市スバル町1-1	585,521	312,313	3,086	ステラ、R1、R2、プレオ、サンバー
矢島工場	群馬県太田市庄屋町1-1	549,845	255,023	2,460	レガシィ、エクシーガ、インプレッサ、フォレスター
太田北工場	群馬県太田市金山町2-1	43,750	26,841	81	自動車用部品
大泉工場	群馬県邑楽郡大泉町いすみ1-1-1	376,038	179,984	1,533	自動車用発動機(エンジン)、自動車用変速機
伊勢崎工場*	群馬県伊勢崎市末広町100	177,503	58,954	75	自動車用補修部品

\*スバルカスタマイズ工房株式会社、富士ハウレン株式会社を含む

1. 群馬地区※の環境方針

当社企業理念および全社環境方針を受け、群馬地区では環境方針を策定し、環境保全活動に積極的に取り組んでいます。

一 群馬地区※ 環境方針 一 [2002年6月改訂]

富士重工株式会社 群馬地区は豊かな自然を守り、次世代に引き継ぐため環境にやさしい「クルマづくり」を目指し「クリーンなスバル」を「クリーンな工場」から提供します。

- (1) 自動車部門における環境への影響を考慮して、積極的な環境保全に努めます。
- (2) 関連する法規制・地域協定・業界規範を順守すると共に、環境上の目的・目標を定めて自主的な活動に取り組めます。
- (3) 「継続的な改善と汚染の未然防止」が重要であることを認識し、一人一人が自覚と責任をもって行動します。
- (4) 環境に関し、階層・職種に応じた教育を推進し、環境意識の定着を図ります。
- (5) 計画的な監査・診断を実施し、環境保全活動の更なる向上を図ります。
- (6) 社会の一員として、地域や社会との交流を図ると共に、環境保護活動に積極的に協力します。



※「群馬地区」とは、自動車の生産拠点である群馬製作所を中心に、同製作所に所在するスバル技術部の本社組織、および、栃木県佐野市に所在するスバル研究実験センター、ならびに、太田市朝日町に所在するスバル部品センターを範囲としたISO14001環境マネジメントシステムの外部審査適用範囲の総称です。

2. 2007年度の主な環境保全活動実績

◇ 地球温暖化防止活動

2007年度は、塗装工程の省エネルギー改善、固定的エネルギー抑制などを実施したほか、2007年6月には矢島工場に2基目となる天然ガスコージェネレーションシステムを導入し、CO<sub>2</sub>排出量は1990年度比20.8%低減しました。また水資源については、1999年度比46.9%低減しています。

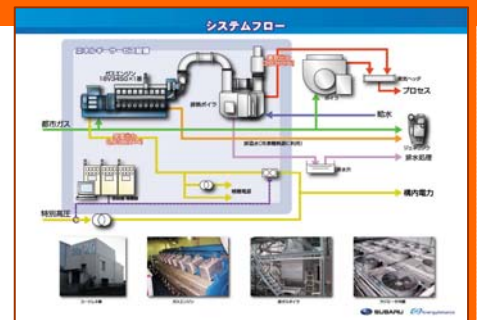
◇ 廃棄物削減活動

廃棄物削減につきましては、廃棄物が発生する量を削減する活動を継続しています。2007年度は、金属くずを除く発生量を2006年度比398ton削減しました。また、金属くずについても2006年度比1,013ton削減しています。

◇ 公害防止活動

2007年度にいただいた苦情、化学物質の流出事故、環境関連法規制値の超過は9~10ページに示したとおりです。「全てゼロ」を目標に、環境リスクアセスメントや工事業者教育をさらに推進していきます。また、塗装工程などから排出されるVOCは、塗料の水性化などにより第4次環境ボランティアプラン目標を達成\*しました。  
\* 第4次環境ボランティアプランVOC低減目標：VOC排出量原単位を2000年度比30%以上低減する。

今後も全ての環境保全活動において第4次環境ボランティアプラン目標の達成を目指し、積極的に活動を進めていきます。



矢島工場に導入した天然ガスコージェネレーションシステム

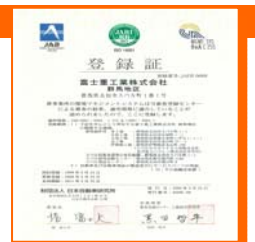
3. 環境監査結果

◇ 環境マネジメントシステムにもとづく内部監査の結果

2007年7月6日~10月26日の期間に、群馬地区内全部署を73に区分して、全ての部署を対象とした内部監査を実施しました。あわせて、同期間中に環境関連法規を管理する9部署に対して、環境関連法令の順守監査を実施しました。是正処置要求事項は77件発生しました。是正処置とともに予防処置も進め、群馬地区全体のレベルアップを図っています。今後も、内部監査員の力量向上と内部監査の仕組みの改善を継続的に進めていきます。

◇ ISO14001外部審査結果

2008年1月29日~2月1日の期間に、ISO14001更新審査を受審し、軽微な不適合1件、観察事項4件を受けましたが、直ちに軽微な不適合の修正措置を行ったことにより、ISO14001の認証継続が確認されました。



ISO14001登録証

4. 2007年度 地域での主な活動 《社会貢献》

◇ コミュニケーション

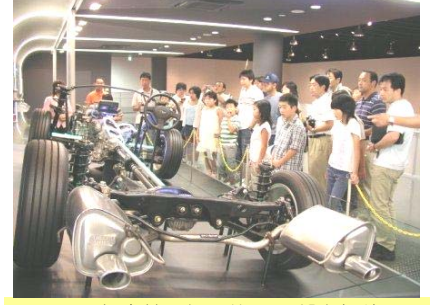
◆群馬製作所では、地域社会との共生を通じて、豊かな社会づくりに貢献してゆくことを目指して、ふれあい行事、交流会、工場見学受け入れ、あるいは地域清掃活動、地域イベントへの参加など、さまざまなかたちで地域の皆さまとのコミュニケーションを積極的に図っています。ここでは、2007年度の活動の一部をご紹介します。



5月 スバル地域交流会で参加した「金山清掃活動」スバル地域交流会として400名参加



7月「おおた夏まつり」にはスバルみこしで1,000名参加



8月 一般応募の親子約100組を招待し開催した「スバル体験教室」



10月 矢島工場に35千人を集めて開催した「スバル大感謝祭」



10月「上州太田スバルマラソン」地域交流会として100名スタッフ参加



11月「太田市産業環境フェスティバル」で電気自動車「R1e」をアピール

◇ 教育・啓発活動など

◆群馬製作所では、職種・階層に応じた教育や訓練を実施しています。また、関係会社・お取引先さま支援の一環としてさまざまな教育も実施しています。



4月 関係会社・お取引先さまの新入社員を対象とした安全衛生・環境教育（24社257名参加）



8月 構内常駐関連会社および化学物質を納入するお取引先48名を対象とした環境教育

◇ その他

◆当社の安全衛生理念には「安全はすべての業務に優先する」とあります。万一の緊急事態発生時にも被害を最小限とすべく、さまざまな対応訓練を実施しています。



例：塗装工程の塗料貯蔵タンクからの流出を想定した緊急事態対応訓練

宇都宮製作所〔航空宇宙カンパニー・エコテクノロジーカンパニー〕



本工場

南工場

南第2工場

半田工場

半田西工場

■ 各工場の概要

(2008年3月末現在)

工場名	所在地	土地面積(m <sup>2</sup> )	建物面積(m <sup>2</sup> )	従業員数(人)	主な生産品目	
本工場	栃木県宇都宮市陽南1-1-11	337,457	176,895	2,012	航空機、無人機、宇宙関連機器	
南工場	栃木県宇都宮市江曾島1388-1				航空機	
第2南工場	栃木県宇都宮市宮の内2-810-4				航空機	
半田工場	愛知県半田市潮干町1-27				49,041	10,630
半田西工場	愛知県半田市上浜町102	41,977	11,610	23	航空機	
本工場	栃木県宇都宮市陽南1-1-11	エコテクノロジーカンパニー	171,816	50,615	196	塵芥収集車、風力発電システム、ロボット <sup>※2</sup> 等

※1：現在、当社では[宇都宮製作所]という組織名称はありませんが、本報告書では航空宇宙カンパニー（栃木県宇都宮市、愛知県半田市）とエコテクノロジーカンパニー（栃木県宇都宮市）の総称として[宇都宮製作所]を使用しています。

※2：清掃ロボットなどについては、当社 クリーンロボット部にて製造・販売しています。

1. 宇都宮製作所の環境方針

当社企業理念および全社環境方針を受け、宇都宮製作所では環境方針を策定し、環境保全活動に積極的に取り組んでいます。

一 宇都宮事業所※ 環境方針 一[2005年6月改訂]

富士重工業（株）宇都宮事業所（航空宇宙カンパニーとエコテクノロジーカンパニー）は、企業活動と地球環境の調和をめざし、環境保全への積極的な取り組みを通して、豊かな社会の実現のため、以下の方針を定めます。

- (1) 環境への負荷の少ない循環型社会実現に寄与するため、製品の開発・設計の段階から生産・物流・サービス、廃棄などの全段階における環境負荷低減に努めます。
- (2) 企業活動の遂行においては、関連する法規制、地域協定、業界基準を遵守するとともに、それらに加えて、自主管理基準を制定して環境保全に取り組めます。
- (3) 環境保全への目的・目標を設定して自主的な活動に取り組み、定期的なレビューを行いながら、継続的な改善につなげます。
- (4) 地球温暖化防止と環境汚染予防の重要性を認識し、地球温暖化物質・環境汚染物質などの排出抑制および廃棄物の減量化、再資源化を図ります。
- (5) 社会の一員として、地域や社会との交流を図ると共に、環境保護活動に積極的に協力します。
- (6) 組織で働くまたは組織のために働くすべての人々の環境教育・啓発を通して、一人一人が環境への自覚と責任を持って行動します。
- (7) 環境情報を積極的に公開し、地域や社会との相互理解、コミュニケーションを推進します。

2. 2007年度の主な環境活動実績

◇ 地球温暖化防止活動

航空宇宙カンパニー：生産増加に伴いエネルギー使用量も増加し、2006年度よりCO<sub>2</sub>排出量は約570ton-CO<sub>2</sub>増加しました。今後は省エネルギーを絡めたCO<sub>2</sub>低減活動を進めていきます。なお1990年度比では4.4%の低減となっています。  
 エコテクノロジーカンパニー：生産効率の悪化等により2006年度よりCO<sub>2</sub>排出量は約290ton-CO<sub>2</sub>増加しました。今後はエネルギー管理を強化し、CO<sub>2</sub>低減活動を進めていきます。なお1990年度比では64%の低減となっています。

◇ 廃棄物削減活動

航空宇宙カンパニー：塗装工程廃液、シール材・接着剤残分等の増加により、発生量が前年度より110ton増加しました。これらの削減を主体にして、コストを絡めた低減活動を進めていきます。  
 エコテクノロジーカンパニー：購入荷姿の変更や材料取りしりの工夫等の改善により、発生量は前年度より27ton低減できました。今後は金属材料の薄板化やリユース物の拡大等の活動を進めます。

◇ 公害防止活動

2007年度にいただいた苦情、環境関連法規制値の超過は9～10ページに示したとおりです。「全てゼロ」を目標に、環境リスクアセスメントや工事業者教育を更に推進していきます。

3. 環境監査結果

◇ 環境マネジメントシステムにもとづく内部監査結果

2007年5～6月および11～12月の期間に、宇都宮製作所（航空宇宙・エコテクノロジー合同）で各52部署の内部監査を実施しました。その結果、軽微なものを含め是正処置要求事項は計86件発生しました。是正処置要求を受けた部署は直ちに処置を実施し、EMSの完成度を向上させています。

◇ ISO14001外部審査結果

2007年7月2日～5日の期間に、ISO14001更新審査を受審し、軽微なものを含め不適合はゼロで、ISO14001の認証更新が確認されました。また、今回の審査では関係会社の「輸送機工業株」を加えた適用範囲拡大審査を兼ねていました。



外部審査

4. 2007年度 地域での主な活動

◇ コミュニケーション

◆宇都宮製作所では、社会の一員として周辺地域や社会との共生を図り、ともに繁栄していくことが大切であると認識しています。地域とのふれあい行事や、交流会の開催、クリーン活動、各種募金への積極的な協力など、さまざまなかたちで地域貢献を行っています。ここでは、2007年度の取り組み、活動の一部をご紹介します。



7～8月 本工場北側の壁をアトリエとして近隣にお住まいの方などに開放し、絵を自由に描いていただきました。書き換えは2年に一度で、今回が9回目となりました。



10月28日 本工場に8千人を集めて開催した「ふれあい祭り」



ふれあい祭りには「環境PRブース」を出展し、製作所の環境取り組み紹介や苗木の配布などを行いました



地域の小学校20校に向向いて実施した「出前環境授業」 年度計50クラス1,519名の児童を対象に環境問題をテーマに授業を行いました

その他の主な取り組みについては、「2008社会・環境報告書」本編30～31ページにも紹介しています。

◇ 教育・啓発活動など

・宇都宮製作所では、人事階層別教育をはじめさまざまな機会を捉え従業員への環境教育、内部監査員教育、フォローアップ教育などを計画的に実施しています。また、地域の関係会社・お取引先さま支援の一環として、環境パトロールなどを積極的に実施しています。

・毎年定期的に「環境事例発表会」を開催し、各職場の優秀な改善事例について活動内容や成果の発表を行っています。さらに、各職場では事故の未然防止に向けた管理の徹底と、万が一の環境事故発生時に環境影響を最小限に抑えるため繰り返し訓練を実施しています。



毎年開催している環境事故、火災などの緊急事態に備えた訓練

◇ 宇都宮製作所サイトレポートの紹介

・宇都宮製作所では、毎年サイトレポート（環境・社会報告書）を発行しています。地域の皆さまに当製作所の概要をお知らせすると共に、交流を深める資料として使われています。



宇都宮製作所 環境・社会報告書 2007

## 5. 製品開発

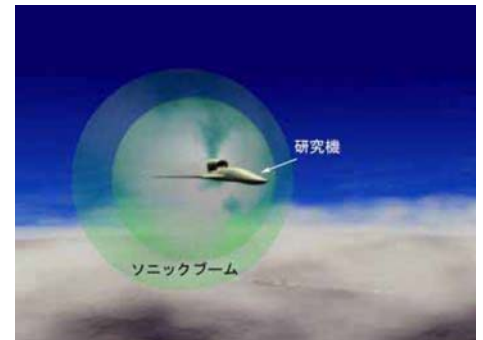
宇都宮製作所の主な技術開発・製品開発についてご紹介します。

### ◇ 航空宇宙カンパニーの技術開発

#### ◆ 超音速旅客機が発生するソニックブームの低減に貢献する静粛超音速研究機設計検討への参画

・次世代の超音速旅客機の開発では、超音速飛行時に発生するソニックブーム（機体から発生する衝撃波が地上に到達した際に聞こえる音で、コンコルドでは落雷の音に相当すると言われている）を低減することが重要な課題となっています。このソニックブームを低減する技術を実証するために、JAXA<sup>※1</sup>において静粛超音速機技術の研究開発が進められています。当社航空宇宙カンパニーは、本研究開発で計画されている静粛超音速研究機的设计検討を担当することになり、超音速旅客機実現という未来に向けて貢献します。

※1 JAXA：宇宙航空研究開発機構



ソニックブーム イメージ図 [JAXA公開資料より]

#### ◆ 静粛超音速研究機的设计

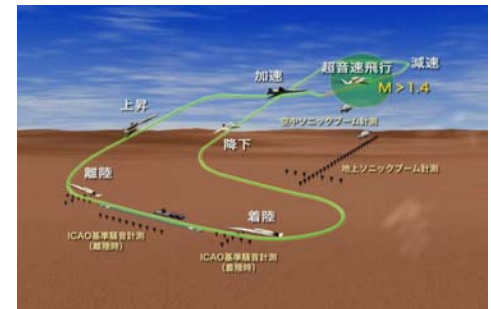
・静粛超音速研究機は、超音速飛行が可能な完全自律の大型無人機です。これまで富士重工業がさまざまな開発等で培ってきた無人機技術、複合材技術等を活用・発展させながら、JAXAと協力して進めていきます。

#### 低ソニックブーム・低抵抗機体設計技術 (ソニックブーム強度の半減)



#### 高度システム統合技術 (離着陸～超音速飛行の自律飛行可能な無人機技術)

静粛超音速研究機 適用技術 [JAXA公開資料より]



静粛超音速研究機 飛行実験イメージ図 [JAXA公開資料より]

### ◇ エコテクノロジーカンパニーの製品開発

#### ◆ 新型回転板式塵芥収集車「G-RX」の開発について

・塵芥車のグローバルスタンダードを目指して、塵芥車市場での2大メーカー、当社と新明和工業とが共同で、次世代型新型回転板式塵芥収集車「G-RX」を開発しました。

・両社が市場で培った塵芥車のノウハウを盛り込み、積載量・積込作業性、操作性、メンテナンス性を向上させると共に、外観もこれまでにない塵芥車のイメージを脱却したデザインを採用しました。また、塵芥車の構造見直しを行い、無駄な余肉を削ぎ落とし軽量化させると共に、油圧配管の圧損低減、低騒音化、環境負荷物質の削減等を図り、環境面では従来の塵芥車に比べて大幅に向上させています。更に法定基準を上回る自主安全基準「SAFETY21」を設定。後方確認のバックアイカメラや後方からの視認性を確保したハイマウントストップランプを標準装備とし、走行時での安全性を向上させた業界トップレベルの新型塵芥収集車です。



新型フジマイティ G-RXシリーズ

埼玉製作所\*



産業機器カンパニー\*埼玉製作所

産業機器カンパニーの主な製品



ロビンエンジン

2008年2月に販売を開始した汎用OHCエンジン「ロビンEXシリーズ」の最上位機種「EX40」と「EX35」



充電式草刈機

充電式草刈機「e-Cutter PRO」

スバル充電式草刈機は  
人に優しい 地球に優しい



発電機



(2008年3月末現在)

■ 工場の概要

工場名	所在地	土地面積(m <sup>2</sup> )	建物面積(m <sup>2</sup> )	従業員数(人)	主な生産品目
産業機器カンパニー*	埼玉県北本市朝日4-410など	143,438	91,942	551	ロビンエンジン、エンジン発電機など

\*現在、当社には埼玉製作所という組織名称はありませんが、本報告書では便宜上産業機器カンパニーの生産工場を埼玉製作所と称する場合があります。

1. 産業機器カンパニーの環境方針

当社企業理念および全社環境方針を受け、産業機器カンパニーでは環境方針を策定し、環境保全活動に積極的に取り組んでいます。

一 産業機器カンパニー環境方針 一[2005年5月改訂]

当カンパニーはエンジンおよび応用製品に対し、開発から廃棄にいたるまでのすべての活動において、地球環境保全を積極的に推進し、豊かな未来の実現を目指します。

- (1) 開発、設計から物流、廃棄段階における環境負荷の低減を図ります。
- (2) 関連する法規制、地域協定、業界規範を順守するとともに、環境保全への目的・目標を定めて自主的な活動を図ります。
- (3) 「継続的な改善と汚染の防止」が重要であることを認識し、一人一人が自覚と責任を持って行動します。
- (4) 環境に関し、階層・職種に応じた教育を推進し、環境意識の定着を図ります。
- (5) 計画的な監査・診断を実施し、環境保全活動の更なる向上を図ります。
- (6) 地域社会との交流を図り、環境保護活動に積極的に協力します。

2. 2007年度の主な環境活動実績

◇地球温暖化防止活動

2007年度のCO<sub>2</sub>排出量は1990年度比24.8%の低減となっています。2006年度との比較では製造製品構成の変化が大きく、CO<sub>2</sub>排出量は138ton増加となってしまいました。

◇廃棄物削減活動

2007年度は、廃油の削減などにより、発生量は前年度より71 ton削減できました。2008年度には、金属研磨屑圧縮装置の稼働率アップ、管理強化などの施策を進めて、金属くずを含めた発生量の抑制を進めます。

◇公害防止活動

環境事故ならびに苦情につきましてはゼロの継続ができましたが、法規制値・自主基準値超過は4件発生\*してしまいました。いずれも適切な是正処置を行い管理しています。今後も、基準値超過・苦情・環境事故すべてゼロを目標に環境リスクアセスメントの実施などを進めていきます。

\*：基準値超過の内容につきましてはwebデータ編の10ページをご参照ください。

3. 環境監査結果

◇環境マネジメントシステムにもとづく内部監査結果

2007年9月18日～10月5日にかけて、全18部署で内部監査を実施いたしました。結果は、不適合ゼロ、推奨項目18件となりましたが、全て是正対策は完了しています。

◇ISO14001外部審査結果

2008年2月4日～7日、ISO14001更新審査を受審しました。結果は、軽微な不適合3件、推奨項目33件を受けましたが、直ちに軽微な不適合の修正処置を行なったことによりISO14001の認証継続が確認されました。



外部審査

## 4. 2007年度 地域での主な活動

### ◇ コミュニケーション

#### 工場周辺のクリーン活動

北本市による「ピカピカきたもとおまかせプログラム」へ参加しており、工場周辺の清掃活動を行っています。2007年度は延べ9回合計889名が参加しました。

#### 地域行事への積極的な参加

北本宵まつり（北本市主催：11月3日）に当社従業員とその家族約300人が「ねぶた曳き」参加しました。他に、れんげそうまつり協賛 などがありました。

#### 「異業種交流会」を埼玉製作所で開催

異業種交流会とは、桶川・北本・上尾周辺にある会員会社間の交流の場で、2007年は9月7日に当製作所にて7社17名を招いて開催しました。

#### 「お取引先さま業務連絡会」で当社環境取り組みを説明

90社のお取引先さまの参加をいただいた「お取引先さま業務連絡会」の場を活用して、当社第4次環境ボランティアプラン、グリーン調達などの取り組みへの理解をいただきました。



103名が参加した環境月間中の工場周囲清掃活動

### ◇ 教育・啓発活動など

#### ◆ 環境月間の取り組み ——「エコライフ DAY 2007 埼玉」への参加——

「エコライフDAYチェックシート」に基づいて家庭でできるエコライフの実践確認を行いました。従業員とその家族1,223名が参加し、全20項目のチェックを行い、その内“水は流しっぱなしにしない”・“部屋を出るときは明かりを消した”など、5つの項目で75%以上の方が実践できたという結果が得られました。

#### ◆ 緊急時対応訓練

各職場で事故や緊急事態が発生した場合でも、環境への影響を未然に防止、あるいは適切な対応が確実にできるようにするため手順に基づいた訓練を行っています。2007年度は、技術部の第1～第3実践課などで計7回34名が参加して緊急時対応訓練を実施しました。

#### ◆ 従業員教育

従業員対象の環境教育は人事階層別教育や内部監査員を中心に計10回開催しました。また、交通安全講話会も毎年開催しています。

## 5. 埼玉製作所 環境取り組みトピック

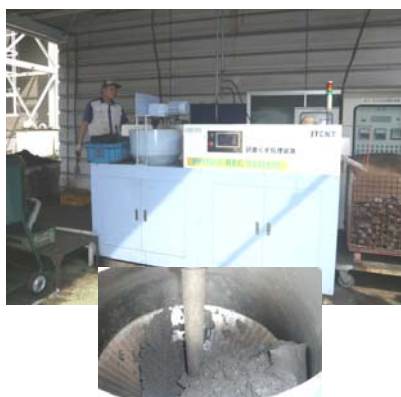
### ◆ 研磨カス「ブリケット」装置の導入

・埼玉製作所では金属の研磨カスを年間数十ton単位で排出していました。（お金を払ってリサイクルしていました）  
2007年7月に、この研磨カスをブリケット化する装置を導入し10月からは売却物として排出できるようになりました。



研磨カス

従来【お金を払ってリサイクル】



導入した「研磨カス ブリケット化装置」

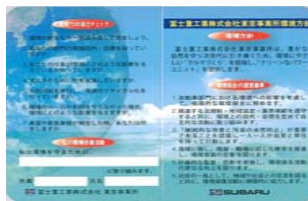


でき上がったブリケット

現在【お金をもらってリサイクル】

従来比 約120万円/年の金額効果を見込んでいます

東京事業所



■ 東京事業所の概要

(2008年3月末現在)

事業所名	所在地	土地面積(m <sup>2</sup> )	建物面積(m <sup>2</sup> )	従業員数(人)	主な生産品目
東京事業所	東京都三鷹市大沢3-9-6	158,378	82,316	957	自動車用エンジン、トランスミッションの研究開発・実験、スバル製品の研究

1. 東京事業所の環境方針

当社企業理念および全社環境方針を受け、東京事業所では環境方針を策定し、環境保全活動に積極的に取り組んでいます。

一 東京事業所 環境方針 一 [2003年9月制定]

富士重工業株式会社東京事業所は、豊かな自然を守り次世代に引き継ぐため、環境にやさしい「クルマづくり」を目指し、「クリーンなパワーユニット」を提供します。

環境方針を実現するための運営基準を次のように定める。

- (1) 自動車部門における環境への影響を考慮して、積極的な環境保全に努めます。
- (2) 関連する法規制・地域協定・業界規範を遵守すると共に、環境上の目的・目標を定めて自主的な活動に取り組みます。
- (3) 「継続的な改善と汚染の未然防止」が重要であることを認識し、一人一人が自覚と責任をもって行動します。
- (4) 環境に関し、階層・職種に応じた教育を推進し、環境意識の定着を図ります。
- (5) 計画的な監査・診断を実施し、環境保全活動の更なる向上を図ります。
- (6) 社会の一員として、地域や社会との交流を図ると共に、環境保全活動に積極的に協力します。

2. 2007年度の主な環境活動実績

◇ 地球温暖化防止活動

低電力照明器具の導入などの省エネ施策を実施しましたが、開発部門実験設備の高稼働などの要因により、CO<sub>2</sub>排出量は前年度比約700ton増加しました。今後も実験設備の高稼働が予想されるため、高稼働を前提とした省エネ施策を進めていきます。なお1990年度比で見ると約19%の低減となっています。

◇ 廃棄物削減活動

廃棄物の発生量につきましてもCO<sub>2</sub>同様開発部門の高稼働により、主に金属くずが大幅に増加し前年度比43ton増加しました。ただし、今年度の目標値比では一般雑用紙の削減などの効果により15ton少ない量で収まりました。

◇ 公害防止活動

2007年度には、油脂類の流出による構内環境事故が4件\*、水質関係の基準値超過が1件発生しました。いずれも適切な正処置を行い管理しています。今後は、基準値超過・苦情・環境事故すべてゼロを目標に環境リスクアセスメントの実施などを進めていきます。

\*：環境事故の詳細につきましては、WEBデータ編10ページをご参照ください。

3. 環境監査結果

◇ 環境マネジメントシステムにもとづく内部監査結果

2007年9月27日～10月22日の間に、事業所内全部署（23区分）を対象に内部環境監査を実施しました。結果、不適合4件、観察項目52件が抽出されました。不適合については是正処置を行い、その効果の確認までを実施しました。

◇ ISO14001外部審査結果

2007年12月12日～14日に、ISO14001継続更新審査を受審し、軽微な不適合1件・改善推奨事項20件の結果となりました。ただし重大な不適合はなく、ISO14001の認証継続が確認されました。

4. 2007年度 地域での主な活動

東京事業所では、社会の一員として地域や社会との共生を通して、豊かな社会づくりに貢献していくことを目指し、事業所見学を通じた小学校対象社会科授業のお手伝い、地域とのふれあい行事、交通安全教室の開催などを積極的に行っています。ここでは2007年度の主な活動をご紹介します。



8月 近隣にお住まいの方も招待し、2,000名を集めて開催した納涼祭



8月 三鷹警察署交通課長を講師に招き、700名が参加した安全運転講習会



10～11月 近隣小学校の児童を招いて開催した事業所見学会(計740名) [小学5年生の社会科授業支援]



本社※



新宿サイト



大宮サイト

■ 本社の概要

(2008年3月末現在)

事業所名	所在地	土地面積(m <sup>2</sup> )	建物面積(m <sup>2</sup> )	従業員数(人)	事業内容
新宿サイト	東京都新宿区西新宿1-7-2	1,600	7,241	538	スバル製品の企画、マーケティングおよび販売ならびにコーポレート部門
大宮サイト	埼玉県さいたま市北区宮原町1-1-2	54,896	4,255	41	スバル製品および販売ならびにコーポレート部門

※「本社」とは、スバル製品の企画、マーケティングおよび販売ならびにコーポレート部門を行う新宿サイトと、スバルパーツ製品のマーケティングおよび販売、ならびにスバルITシステムの開発および構築を行う大宮サイトを範囲としたISO14001環境マネジメントシステムの外部審査適用範囲の総称です。

1. 本社（新宿サイト・大宮サイト）の環境方針

当社企業理念および全社環境方針を受け、本社（新宿サイト・大宮サイト）では環境方針を策定し、環境保全活動に積極的に取り組んでいます。2007年6月5日に、「社会的責任を全うする企業」の達成にむけ、CSR取り組みを織り込んだ環境方針に改定しました。

一 新宿サイト・大宮サイト 環境方針 一 [2003年7月制定] - [2007年6月5日改定]

常に環境と事業活動の深い関わりを認識し、地球と社会と人にやさしい商品と環境づくりに努め、豊かな未来の実現を目指します

- (1) 新宿サイトにおける、商品の企画・開発・設計・製造・販売・サービス・廃車など、各段階に関わる事業活動において、CSR（企業の社会的責任）や環境影響を考慮した企業活動に努めます。
- (2) CSR活動および環境保全活動を推進するため、関連する法規制・地域協定・業界規範を順守すると共に、目的・目標を定めて自主的な活動に取り組みます。
- (3) 事業活動における継続的な改善と汚染防止の重要性を認識し、一人ひとりが自覚と責任をもって行動します。
- (4) CSR活動および環境保全活動の推進を図るため、階層・職種に応じた教育を実施し、一人ひとりの意識向上を図ります。
- (5) 計画的な監査・診断を実施し、環境保全活動のさらなる向上を図ります。
- (6) 企業市民として、地域や社会との交流を図ると共に、社会を取り巻くさまざまな課題に対して、事業活動を主体としたCSR活動および環境保護活動に積極的に協力します。



2. 2007年度の主な環境活動実績

◇ 地球温暖化防止活動

CO<sub>2</sub>の排出量は、従来からのこまめな省エネ活動の積み重ねで、2007年度は約512ton-CO<sub>2</sub>となり、2006年度比2.3%の削減ができました。2007年度も、クールビズ活動などを継続し、省エネに取り組んでいます。

◇ 廃棄物削減活動

2007年度は、PPC用紙排出量は29tonとなり、2006年度比約6%の低減が図れました。なお、100%リサイクルを継続しています。また、一般可燃物・雑介などの排出量は17.7tonとなり、2006年度比約9%の低減が図れました。今後も年1%以上の低減に取り組んでいきます。

3. 環境関連法規制違反、行政指導、苦情などについて

該当事項はありませんでした。

4. 環境監査結果

◇ 環境マネジメントシステムにもとづく内部監査の結果

2007年10月14日～19日の期間に、本社地区全部門を32部署に区分して、全ての部署を対象として内部監査を実施しました。結果、不適合3件、観察事項41件が抽出されました。不適合については是正処置を行い、その効果の確認・地区内の水平展開を図り、全体のレベルアップを図っています。

◇ ISO14001外部審査結果

2007年12月5日～7日、ISO14001継続審査を受審し、13件の推奨事項などを受けましたが、不適合は「ゼロ」でISO14001の認証継続が確認されました。

5. 2007年度地域での主な活動

本社地区での活動の一部をご紹介します。



6月に開催した新宿サイトISO14001 2007年度キックオフ式



7月に開催した業務改善事例発表会 毎年行い、優秀事例の水平展開を実施しています



12月ISO14001継続審査 不適合ゼロで認証継続が確認されました



2008年2月に開催した関係会社スバル興産との環境交流会

## 国内関係会社

富士重工業は、国内の関係会社のなかで環境負荷が多い製造関係および輸送関係の5社による「国内関連企業部会」を組織しています。この部会は、年2回定期的に開催（必要により臨時開催あり）して企業間の活動事例の共有化、水平展開を図り、効率的で合理的な環境活動を推進しています。

## ■ 各企業の概要

(2008年3月末現在)

企業名	所在地	従業員数(人)	主な生産品目
輸送機工業(株)	愛知県半田市上浜町102	94	航空機部品の製造、販売
富士機械(株)	群馬県前橋市岩神町2-24-3	369	自動車部品・産業機械・農業用トランスミッションの製造、販売
(株)イチタン	群馬県太田市新道町74	182	自動車・産業機械用鍛造品の製造、販売
桐生工業(株)	群馬県桐生市相生町2-704	82	スバル特装車の製造・スバル用部品の物流管理
(株)スバルロジスティクス	群馬県太田市朝日町558-1	134	自動車およびその部品の梱包、出荷、陸送業、倉庫業、整備業、保険代理店業

## 1. 主な部会活動実績

2007年度は、5月11日と11月15日に部会を開催しました。この部会では、・廃棄物の削減・地球温暖化防止・省エネの目標が達成できたことを確認しました。

## ◇5月開催の通算第14回部会の主な報告・討議内容

- ・各社の2006年度環境保全活動実績および2007年度計画について
- ・低濃度PCB含有機器の保管管理を含めた廃棄物管理の徹底について、など

## ◇11月開催の通算第15回部会の主な報告・討議内容

- ・各社2007年度上期の実績および年度の見込みについて
- ・省エネ・CO<sub>2</sub>削減やチームマイナス6%活動の推進について、など

\*2008年5月9日に通算第16回部会が開催され、2007年度は・廃棄物の削減・地球温暖化防止・省エネの各項目で目標達成できたことを確認しました。実績データにつきましては、webデータ編22ページをご参照ください。



## 2. 主な環境活動実績

## ◇環境マネジメントシステム構築

国内関連企業部会5社はすでにISO14001環境マネジメントシステムの認証を取得し、教育、訓練、特定施設の法令順守活動、内部監査など、汚染の未然防止と環境負荷の低減に向けた取り組みを進めています。

(輸送機工業については2007年7月に当社宇都宮製作所のISO14001認証範囲に加わり同一のEMS活動を推進しています)

## ◇地球温暖化防止活動

CO<sub>2</sub>排出量は2007年度5社合計で24,198ton-CO<sub>2</sub>となり、前年度と比べ2.3%削減しました。

## ◇廃棄物削減活動

廃棄物削減活動では、処理方法の見直しやきめ細かな分別活動の推進により、各社合計で埋立て廃棄物のゼロレベルを達成しています。(2007年度埋立量実績14.5ton、前年度比-9.5ton)

※各社のデータにつきましては、webデータ編22~23ページに掲載しております。

## 3. 環境関連法規制違反(自主基準値超過)、行政指導など

## ◇環境関連法規制違反・自主基準値の超過について

- ◆騒音関係 (株)イチタン：2007年7月と2008年1月の夜間騒音測定値のうち、①工場西側境界夜間騒音測定値、②スポーツプラザ駐車場側敷地境界騒音測定値が基準値最大3.5デシベル超過しました。対策として①・②共に、防音壁を設置し約5デシベルの低減効果が得られました。なお、本件に関して騒音苦情などは受けておりません。
- ◆水質関係 (株)イチタン、(株)スバルロジスティクス：超過項目、値、対応についてはwebデータ編22ページをご参照ください。
- ◆大気関係 (株)イチタン：超過項目、値、対応についてはwebデータ編23ページをご参照ください。
- ◆輸送機工業(株)・富士機械(株)・桐生工業(株)の測定結果については、環境法規制違反・自主基準値の超過はありませんでした。

## ◇行政指導・勧告などについて

- ◆2007年度、5社とも行政からの指導はありませんでした。

## ◇PCB含有機器などの保管状況について

- ◆輸送機工業(株)、(株)イチタン、桐生工業(株)の各社で、管理台帳と共に適正に保管しています。

## 4. 環境に関する苦情・事故など

- ◆騒音関係 (株)イチタン：8月に廃棄物引き取り業者によるスクラップ排出時の騒音(部品の落下音)苦情を1件受けました。対策として排出作業手順を見直し(社内での落下音の出る作業を廃止)しました。
- ◆他4社では苦情はいただいていません。
- ◆環境事故については、5社共発生していません。

## 5. 環境監査結果

### ◇ ISO14001外部審査結果

各企業ごとに審査を受審し、軽微な不適合、観察事項(推奨事項を含む)などを下記のように受けました。軽微な不適合については直ちに修正措置を行ったことによりISO14001の認証継続が確認されています。

企業名	実施日	軽微な不適合	観察事項	良かった点
輸送機工業(株)	2007年 7月 2～ 5日	0	5	0
富士機械(株)	2007年 8月 6～ 8日	6	0	3
(株)イチタン	2007年 3月26～27日	0	7	2
桐生工業(株)	2007年 8月21～22日	0	9	1
(株)スバルロジスティクス	2007年11月12～13日	0	6	0

輸送機工業(株)については、富士重工業宇都宮製作所の認証範囲に加わりましたので、その審査時に受けた観察事項のうち輸送機工業に関わるものを上げています

(各企業のISO14001環境マネジメントシステム認証登録年月、審査機関などのデータにつきましてはwebデータ編23ページをご参照ください)

## 6. 2007年度 地域での主な活動

### ◇ コミュニケーション

- ◆ 各社共、さまざまな社内・外コミュニケーション、会社周辺の美化、清掃活動を実施しています。ここでは、2007年度に実施した活動の一部をご紹介します。



桐生工業(株)の清掃活動



(株)イチタンで毎月発行している従業員コミュニケーション紙の「イチタン 月報」



富士機械(株)で8月に800名を集めて開催した納涼祭の「コマ」

- ◆ (株)イチタン、桐生工業(株)、(株)スバルロジスティクスの3社は、スバル地域交流会※活動にも参加しています。

※スバル地域交流会：富士重工とその取引先54社からなる組織で、太田市と周辺住民との相互交流、並びに地域発展を図り「住みよい街」づくりに貢献することを目的として、さまざまな地域貢献活動を行っています。活動内容はホームページでもご覧いただけます。[<http://www.chiiki-kouryuukai.com/index.html>]

## 7. 環境教育、啓発、緊急時対応訓練実施状況など

- ◆ 各社共、環境マネジメントシステムや法律に基づき、さまざまな環境教育開催や緊急事態に備えた訓練を実施しています。

企業名	実施日	内容	参加人数	実施日	内容	参加人数
輸送機工業(株)	富士重工業宇都宮製作所のEMSに基づいて同一の教育・訓練を実施しています					
富士機械(株)	4月3日	環境基礎教育	8名	10月12日	ガス漏れ緊急対応訓練	23名
(株)イチタン	9月12日	環境法規制教育	55名	12月5日	防災緊急対応訓練	135名
桐生工業(株)	7月30日	環境コンサルタント教育	11名	12月19日	防災緊急対応訓練	110名
(株)スバルロジスティクス	4月19日	ISOスキルアップ教育	29名	11月15日	防災緊急対応訓練	161名
	随時	新入・中入社員環境教育	29名			

上記表では実施項目の一部をご紹介します。これ以外にも教育・訓練を実施しています。



桐生工業(株)の防災緊急対応訓練

### (株)スバルロジスティクスとスバル輸送協会および関係会社による「交通遺児助け合い募金」寄付について

12月27日群馬県 太田市役所にて賛同いただいて、集った募金を太田市清水市長に手渡しました。

これはスバルロジスティクスが中心となって、毎年実施しており2007年は476,258円を寄付しました。



右より、スバルロジスティクス岡崎社長、太田市清水市長、スバル輸送協会黒岩会長、丸の内運輸(株)太田営業所岩崎所長

海外関係会社

富士重工業は、海外の関係会社のなかで特に環境負荷が高い北アメリカの製造関係および販売関係の5社により、「北米環境委員会」を組織しています。この委員会は、年2回定期的に開催（必要により臨時開催あり）して企業間の活動事例の共有化、水平展開を図り、効率的で合理的な環境活動を推進しています。

■ 各企業の概要

(2008年3月末現在)

企業名	所在地	従業員数(人)	主な生産品目
SIA <sup>※1</sup>	インディアナ州ラファイエット	2,813	米国におけるスバル車の製造、トヨタ車の受託生産
SOA <sup>※2</sup>	ニュージャージー州チェリーヒル	816	米国におけるスバル車および部品の販売、整備
SCI <sup>※3</sup>	オンタリオ州ミシサーガ	96	カナダにおけるスバル車および部品の販売、整備
SRD <sup>※4</sup>	ミシガン州アンナーバー	28	北米市場におけるスバル車の研究開発
RMI <sup>※5</sup>	ウィスコンシン州ハドソン	62	米国における汎用・四輪バギー・ゴルフカート用エンジンの製造、販売

※1 SIA : Subaru of Indiana Automotive, Inc. ※2 SOA : Subaru of America, Inc. ※3 SCI : Subaru Canada, Inc.  
 ※4 SRD : Subaru Research & Development, Inc. ※5 RMI : Robin Manufacturing U.S.A., Inc.

1. 主な委員会活動実績

2007年は、3月6日と9月18日に北米環境委員会を開催しました。この委員会には日本からもCSR・環境委員長・事務局などが参加し、北米環境委員会各社の活動報告と共に、日本のCSR・環境委員会の活動報告も行いSUBARUのグローバルな情報共有を図っています。

2008年2月19日にも北米環境委員会を開催し、ここでは2007年の実績と2008年の目標の確認ならびに、今後の活動体制についての討議がなされました。なお、2007年については廃棄物・エネルギー・CO<sub>2</sub>・用水の全ての項目について目標を達成しています。



北米環境委員会参加メンバー

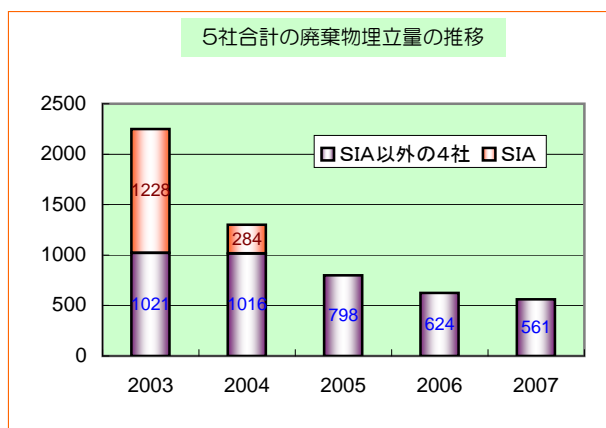
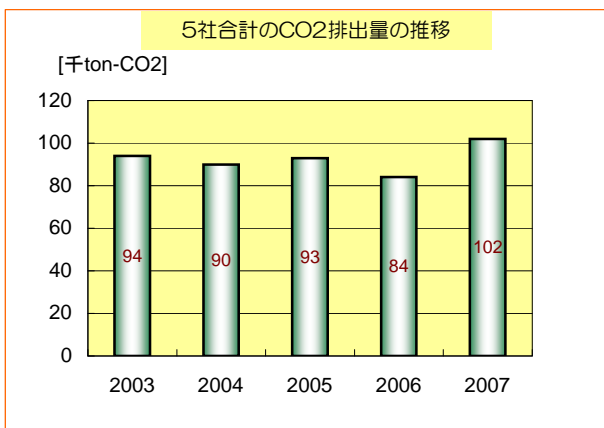
2. 主な環境活動実績

◇環境マネジメントシステム構築

北米環境委員会の5社はすべてISO14001環境マネジメントシステムの認証を取得し、教育、訓練、特定施設の法令順守活動、内部監査など、汚染の未然防止と環境負荷の低減に向けた取り組みを進めています。特にSIAでは1998年11月に認証取得しており、これは日本国内のSUBARU生産拠点の群馬製作所よりも4ヶ月早い取得でした。さらに2006年12月には、SIA・SOA・RMI 3社でさらに進んだ取り組みとして統合認証を取得しています。

◇環境負荷（5社合計のCO<sub>2</sub>排出量と廃棄物埋立量）

CO<sub>2</sub>排出量は2007年は102千ton-CO<sub>2</sub>となり、2006年と比較し約21%増加しました。これは主にSIAのトヨタ車受託生産開始を含む生産増加によるものです。地球温暖化防止のため、さらに対策を推進し削減に努めていきます。廃棄物の埋立量については2007年度561tonとなり、2006年度と比較し約10%低減できました。なお、SIAについては2005年にゼロエミッションを達成し、現在も継続しています。



◇地球温暖化防止への取り組み

◆SCIとその関係会社のSOMI(Subaru Of Mississauga)では、CO<sub>2</sub>排出量が少なく、省エネルギー性の高い広告塔の検討に取り組んでいます。右の写真はその取り組みの1つとして進めているLED照明の広告塔です。今後も、CO<sub>2</sub>削減に積極的に取り組んでいきます。



◇廃棄物削減への取り組み

- ◆SIAでは、すでにゼロエミッションを達成していますが、さらに廃棄物の発生そのものを減らす取り組みを続けています。現在は、塗装工程から出る汚泥の削減や梱包材の再使用などに取り組んでいます。また、SIAの環境保全活動は2007年7月にCNBCテレビ“On the Money ショー”および2008年1月には全米最大発行部数の新聞“USA Today”に取り上げられました。今後もより厳しい目標を設定し取り組んでいきます。
- ◆SOAでは、廃棄物削減を確実に進めています。2007年にはスプレー缶をリサイクルできる様に改善したことなどにより、廃棄物発生量が約100ton、埋立量が約80tonを削減しました。

3. 2007年度 地域貢献実績など

◇SIAの社会貢献

- ◆1997年にSIAからの寄付金100万ドルを基に地域では最大規模の「SIA基金」が設立されています。この「SIA基金」はインディアナ州にお住まいの方々の助成を目的に、公共団体や福祉・芸術文化分野の団体などに対し、寄付が行われています。
- ◆SIAの創立20周年を記念して、ラフィエット市およびティピカヌー郡にスバルレガシィを寄贈しました。
- ◆工場では「お客さまの日」を設け、各種イベント開催や一般の方々向けの工場見学ツアーなどを実施しています。



ラフィエット市へのレガシィ寄贈式

◇SOAの社会貢献

- ◆SOAでは、「SOA基金」が設立されています。2007年にはこの「SOA基金」を使って、以下のような貢献活動を行いました。
  - ・歴史的建造物のパーキンスアートセンターの環境に配慮した建て替えへの寄付
  - ・ニュージャージー州内にあるマツの自生地保護への寄付
  - ・ニュージャージー州内の十代若者向けの安全運転プログラム・生物医学研究施設への寄付
  - ・ペンシルバニア州では、子供の識字能力向上のための小学校教員支援への協力などを実施しています。



パーキンスアートセンター



児童の識字能力向上教育

- ◆オレゴン州の海岸での清掃活動にも毎年参加しています。



清掃活動を行う従業員

◇SCIの社会貢献

- ◆毎年恒例のアースデイイベントにミシサーガ市と共同で2007年も参加しました。これは市長の呼びかけにより市内の全企業が自社の事業所周囲の清掃活動を行うものです。



清掃活動を行う従業員



アースデイ清掃活動でいただいた認定証



- ◆SCIとその関係会社SOMIでは、ミシサーガ市のポイ捨て禁止プログラムに協力しています。これは事業所周囲の道路2.5kmを清掃することを約束するもので、2007年には2年間の約束期間が終了し、市長より感謝状をいただきました。



事業所前の道路清掃活動を行う従業員



活動に参加したSCI横山会長(右)とキャザー部長(左)



「ポイ捨て禁止プログラム」を終了し、いただいた感謝状